

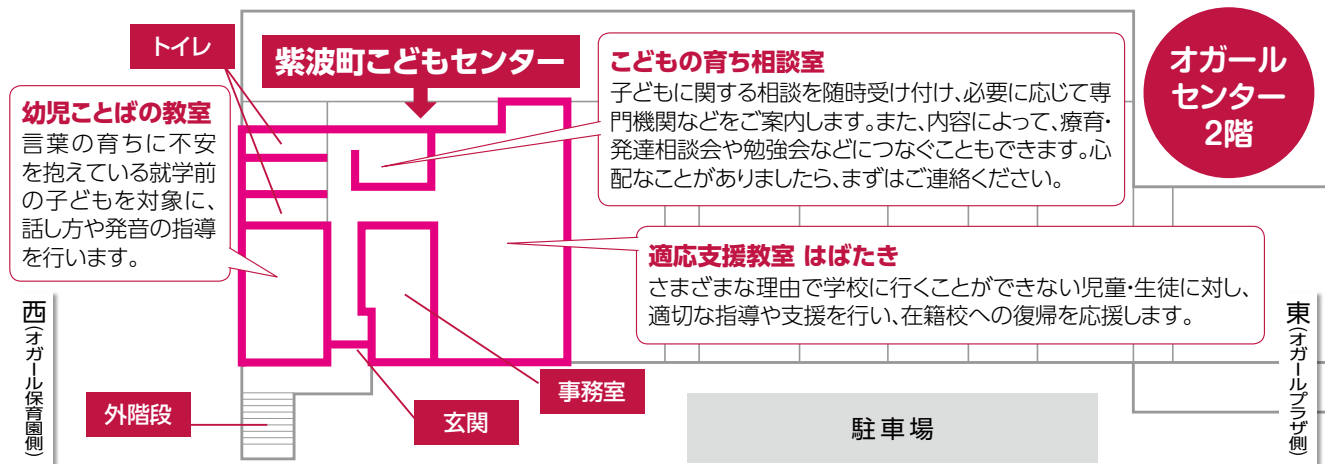
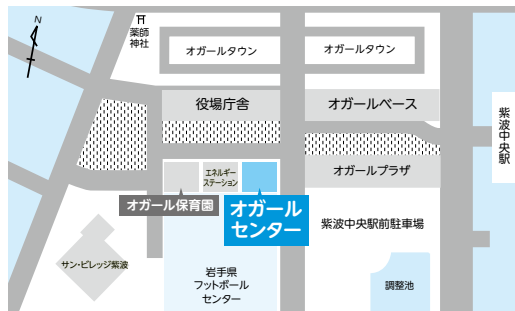
子どもたちの育ちを支え応援する「紫波町こどもセンター」開所

紫波町こどもセンター

町は4月1日、全ての子どもたちが心豊かに成長していくことを応援し、子どもやその保護者の抱えている悩みに対してより専門的に対応するため、「紫波町こどもセンター」を開設しました。同センターでは、子どもの言葉・理解・行動などの発達に関する相談のほか、子育てに悩む保護者や、学校などで悩みを抱えている子どもたちへの支援講座などを実施する予定です。

こどもセンターはココ！

役場庁舎南側に完成したオガールセンター。写真左奥の階段を上るとこどもセンターの入り口があります



【相談・問合せ】 紫波町こどもセンター ☎613-6691 紫波町紫波中央駅前2-3-94

開館日時：毎週月～金曜日(年末年始・祝日を除く)午前9時～午後5時 ※各教室の開室日時は、それぞれ異なります。

病気の子どもを保育する「病児保育」が始まりました

オガール地区に新たに完成したオガールセンター内で、4月10日から病児保育事業が始まりました。病児保育は、保護者が就労などの都合により、病気の回復期に至っていない子どもを保育できない場合に、一時的に保育を行うものです。内容や利用方法は次のとおりです。

■日時 月～金曜日(祝日や年末年始を除く)

午前8時30分～午後5時(延長希望に応じ、午後6時まで)

■場所 紫波中央病児保育室(紫波中央小児科内)

■対象・定員 生後6カ月から小学6年生までの子ども 6人

■利用料金 町内に住所を有する児童 1日当たり2200円(生活保護世帯・市町村民税非課税世帯は無料)／延長1000円
※飲食代、医療費などは別途料金がかかります。

■事前登録・問合せ こども課 子育て支援室

☎672-2111 内線3182

■利用予約 紫波中央病児保育室 ☎672-1122

(オガールセンター1階西側。入り口はフットボールセンター側)

〈利用方法〉

①事前登録 病児保育を希望する保護者は、事前にこども課で利用登録を行います。町から保護者には「利用登録カード」が発行されます。
※手続きには、必ず母子手帳と印鑑を持参してください。



②利用予約 利用したい日時が決まったら、病児保育室に予約の電話をします。かかりつけ医には「連絡票」の作成を依頼してください。



③利用 当日は子どもの病状を伝えた上で、預けます。かかりつけ医からの「連絡票」も一緒に渡してください。



④支払い 利用料金は、子どもを迎えに行った際、病児保育室に支払います。

子どもの育ちについて考えよう研修会

町は昨年度から、子どもたちのより良い育ちについて考え、学びを深めるため、「子どもの育ちについて考えよう研修会」を開催してきました。その中から、3つの講演会の内容を抜粋してご紹介します。



町内の子育て支援関係者など約50人の前で講演する請川さん

『保育におけるドキュメンテーションの活用』平成28年11月19日(土)

講師：日本女子大学 家政学部 児童学科准教授 請川 滋大さん

現在、保育業界で注目されている「ドキュメンテーション」とは、子どもたちがどのようなことに興味を持ち、考え、悩み、つまずき、そのつまずきをいかに克服しながら育っているのかを、写真や文章などを組み合わせて可視化することです。講師の請川さんは「幼児期に非認知能力(学びに向かうとする力、人やものに興味を持ち関わろうとする力など)をしっかりと育てることが、小学校以降の認知能力(学力など)を高めることにつながっていきます」と述べた上で、ドキュメンテーションの意義と効果的な活用について具体例を挙げながら紹介しました。

〈ドキュメンテーションの効果〉

- ドキュメンテーションを作成する→保育者が、子どもたちの言動や行動に表れている心の動きをより意識的に捉え、そこに必要な環境や働きかけについて気づくことができ、保育の質の向上につながる。
- ドキュメンテーションを子どもたちと共有する→対話や新たな活動のきっかけが生まれる。
- ドキュメンテーションを保護者と共有する→子どもたちの育ちの過程を共通認識・理解することができる。

『子どもの遊びとは—幼児期の遊びの重要性』1月14日(土) (前半)

講師：盛岡大学短期大学部 岸 千夏さん

岸さんからは、乳幼児期が人生の根幹となる大事な時期であり、子ども自身が能動的に物事に取り組むこと(=遊び込むこと)が最も子どもの力を伸ばすことにつながるということ、大人の愛情を実感することにより「自己肯定感」や「人への信頼感」を育むことができることなどについてお話しいただきました。



子どもたちは、依存と自立を行ったり来たりしながら成長していくため、うまくできないことも多くあります。そのときに、しっかりと受け止められ、「大丈夫」と実感し、安心感を取り戻せるような関わりが大切です。

〈遊び込む環境をつくるために大切な「三間」^{さんま}〉

- 満足するまで取り組める、たっぷりとした『時間』
- やりたいことをいろいろ試せる『空間』
- 友達や、面白い空気感を生み出す先生や大人などの『仲間』

〈子どもへの接し方のヒント〉

- 共感的に接する
- やり抜く体験を見守る
- 気持ちのコントロールを支える



子どもたちの思いに寄り添いながら、子どもたちの発達や興味に応じて多様な環境をつくるのが大切です。

『豊かな遊びを育む』1月14日(土) (後半)

講師：岩手大学教育学部附属幼稚園 副園長 下山 恵さん

日々、子どもたちと関わっている下山さんは、前半に行われた岸さんのお話を踏まえ「子どもたちは遊びをとおして学んでいきます。しかし、ただ遊んでいればよいということではなく『発達に必要な経験が満たされるような遊び』であることが重要です」と述べた後、具体的な実践例を紹介しました。

〈『発達に必要な経験が満たされるような遊び』とは〉

- 心から楽しいと思って、我を忘れて遊ぶこと
- 主体的に環境に関わること
- 十分に満足感を味わえること

本年度もさまざまな講演会を開催する予定です。日程などは、随時『紫波ネット』でお知らせします。

